

令和4年度 事業報告書

自 令和4年4月 1日

至 令和5年3月31日

社会福祉法人 鶯鳴会
多機能型事業所

1. 事業所の名称 就労継続支援B型 KoBo れもんぐらす

2. 所在地 三重県名張市西原町 2590 番 6

3. 職員体制

管理者	1名(兼務)	サービス管理責任者	1名(専従)
職業指導員	1名(専従)	生活支援員	1名(専従)

4. 営業日ならびに営業時間

事業所	【毎週月曜日から金曜日、祝】 午前8時30分から午後5時30分
利用者の利用日 ならびに利用時間	【毎週月曜日から金曜日、祝】 午前10時00分から午後4時00分
休所日	土日・年末年始

5. 定員 10名

6. 利用人数 9名 (R5. 3. 31 現在)

7. 利用者送迎 希望により、ドア to ドアの送迎を行った。(9名中8名が送迎利用)

8. 年間利用状況

年度	開所日数	平均利用人数	延べ利用人数	利用率
令和4年度 (令和3年度)	257日 (250日)	8.8名 (9.1名)	2252名 (2264名)	88.0% (84.0%)

9. 利用実績

(利用平均人数:小数点第2位切り上げ)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
開所日数	21	22	22	21	23	22	21	22	20	20	20	23	257
利用人数	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	9	
利用延べ人数	183	176	201	192	186	204	200	208	164	171	173	194	2252
利用平均人数	8.8	8.0	9.2	9.2	8.1	9.3	9.6	9.5	8.2	8.6	8.7	8.5	8.8
新規契約者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
契約終了者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1*	0	1

※契約終了理由→他事業所へ通所を希望されたため

10. サービス内容

◎作 業・・・意欲を持って集中して働くこと、作業能力・技量等をも高めること、工賃を得ること等を目的とし、日課の中心として作業を行った。今年度に関しては一般就労への希望者はいなかった。

◎社会活動・・・パン販売で地域社会と交流した。

◎外出・・・昨年度に引き続き、2か月に1回、気分転換・経験等の目的を持ったテイクアウトランチを続行した。

◎健康管理・・・1日2回の検温、週に1度の血圧測定を行い、希望者には健康診断※1とインフルエンザ予防接種※2、新型コロナ予防接種（4回目：8～9月、5回目：11月）を行った。また、例年通り、手洗い・うがい・アルコール消毒を1日2回（登所時・昼食前）徹底して行い、飛沫感染を防ぐため全員にマスクの着用を義務付けた。10年連続ノロウイルス、インフルエンザに感染した利用者はいなかった。さらに、新型コロナウイルス感染症対策のため各種イベントは中止とした。

※1. 3月 ※2. 10月

◎給食・・・希望者対象に給食サービスを提供した。（1食277円）

◎防災対策・・・年に2回（9月、3月）消防署との連携をもち、通報、避難および消火訓練を行った。災害発生時の対応については、前年度に引き続き、災害級の地震を想定し身を守る訓練から火災発生時の対応、人命救助（心肺蘇生法、AED）、そして避難所（はなの里）まで徒歩での移動、さらに保護者による迎え（引き渡し）も含め丸一日をかけて大規模な訓練を予定していたが、生憎の天候不良により、避難所までの移動は中止し、代わりに避難経路上の「注意ポイント」の写真をスクリーンに映し出し、なぜ注意する必要があるのか1か所ずつ丁寧に説明し、職員、利用者への周知を試みた。また、消防用設備等又は特殊消防用設備等について、定期（9月、3月）に点検し、その結果を消防長又は消防署長に報告（9月）した。異常はなかった。

◎防犯対策・・・7月20日(水)、警察署と連携を図り不審者対応訓練を実施した。その際、換気のため開放していた職員室の窓から、不審者役である警察官が建物内にあっさり侵入。新たな課題が挙がる結果となった。その後の対応として「職員不在の部屋は窓を閉める(換気より命を優先)」こととした。昨年度に課題として挙げられた来客時対応については、対策通り「どんな場面でもインターホンを使用し来客予定確認を行う」ことにより、より利用者の安全を確保することができた。

11. 作業内容

①パン・クッキー作業

作業	内容
製造	計量（原材料）、トッピング（具材を生地の上に乗せる）、焼成（オーブンで焼く）、パンの袋詰め

販売	販売先での接客（商品の品出し、会計）、販売準備
清掃	食器(機材含む)洗い、ばんじゅう（パンを入れる箱）消毒、床、棚、車、窓

②下請け作業 【取引先：株式会社 SMV JAPAN 、東亜ゴム工業株式会社】

内容		
株式会社 SMV JAPAN	東亜ゴム工業株式会社	
検品（傘・炭）	タグ切り	バリ取り
商品の箱詰め	タグ付け替え	汚れ落とし
箱作り	値付け	シール貼り
シール貼り		マーキング

12. 作業別利用者数 (R5.3月末現在)

	パン製造班	下請け作業班	給食班	合計
男性	0名	2名	0名	2名
女性	3名	3名	1名	7名
計	3名	5名	1名	9名

13. 工 賃

年度	年間の支払い工賃額の合計	年間の支払い対象利用者数	平均工賃月額※
令和 4年度	1,421,716円	112名	12,693円
令和 3年度	1,360,150円	126名	10,795円
令和 2年度	1,307,058円	106名	12,330円

※算出方法「年間の支払い工賃額の合計÷年間の支払い対象利用者数」

今年度は、昨年度に比べ平均工賃が1900円程上がる結果となった。その要因としては、利用率のアップや支払い対象者の作業取り組み時間の増加が挙げられる。

14. 苦情(要望)関係

- (1) 件数 6月1件、7月1件
(2) 苦情(要望)内容→解決の方法

No.	苦情(要望)内容	解決の方法～改善の結果
1	しらん間に、またルールふえたからスゲーイライラする。もういいかげんにしてほしいです。ルール作るの(´_<) (原文ママ※) 令和4年6月30日	主訴：僕の知らない間にルールが増えていたので気分が悪い 要望：ルールを増やさないでほしい 対応：同日、15:00～担当職員に事実確認を行った。結論→新たなルールは作っていない ただ「作業休憩後の仕事始めの合図を携帯電話のアラームを使用して一斉スタートできるようにしてみませんか？」と提案は

		<p>した。その時の利用者の様子を感じ取り、提案は取り下げているので新たなルールは作っていないとのことだった。</p> <p><u>翌日、7月1日(金)本人に報告</u></p> <p>「携帯電話のアラームのことは『アラームしてみたらどうかな?』と聞いた話でルールになっていないので安心してください。」</p> <p>結果：「わかった。ありがとう」と納得された。 (その後、同様の苦情なし)</p>
2	<p>利用料やコロナワクチンの接種券など、すぐにわたせるスタッフに渡したい!! 決まった職員に渡すのなんで?と思います。決まっているのなら説明もほしいです。</p> <p>(原文ママ)</p> <p>令和4年7月18日(月)</p>	<p>本人の要望に沿うことで即日解決した。 (その後、同様の苦情なし)</p>

※原文ママ・・・文章の引用などにおいて、誤字や事実誤認と思われる記述が含まれている部分をあえて訂正せずに掲載する場合に、原文をそのまま載せていることを明示する表示。
(実用日本語表現辞典より)

15. 総括

① パン・クッキー製造班

年度	年間売上金額
令和4年度	2,516,205円
令和3年度	2,134,376円
令和2年度	2,143,343円

年間売り上げに関しては、昨年度に比べ40万円弱の増収となった。8月に他事業所にて新型コロナウイルス感染者が発生し、感染拡大防止のためパン製造を2日間休んだにもかかわらずの結果である。コロナ禍ではあったが定期的に一年を通して販売できたこと、またクッキーの大量注文を年間通して受注できたことが大きく影響している。それには、季節に合わせた商品提供や新メニューの開発、可能な限りお客様の要望に応える担当職員の姿勢、個別支援計画に沿って日々パン作りに取り組む利用者の努力があってこそその数字だと考えられる。

【販売先】

1. プリチストンケミテック株式会社 (名張市西原町 2350)	企業
2. 株式会社 SMV JAPAN (伊賀市安場 1101)	
3. 株式会社ニューウェイ (伊賀市服部町 271-1)	
4. ファイン株式会社 (伊賀市蔵縄手 377-1)	
5. 三重県立特別支援学校つばさ学園 (名張市美旗町南西原 229-2)	福祉
6. 社会福祉法人 名張市社会福祉協議会「ふれあい」 (名張市丸之内 79 番地)	

7. ひまわり会（定期的にクッキーを大量受注）	団体
8. いきいき武道館（名張市蔵持町里 2928）	

② 下請け作業班 【取引先： 株式会社 SMV JAPAN 、東亜ゴム株式会社】

年度	年間売上金額
令和 4 年度	519,935 円
令和 3 年度	497,241 円
令和 2 年度	528,931 円

年間売り上げに関しては、横ばい状態が続いているが安定している状態とも判断できる。下請作業班に関しては、企業先の商品（車の部品）を扱っており、その商品がお客様の手に渡ることから何度も不良品が流出してしまうと取引が中止になる可能性があるため、職業指導員は常々利用者に対しスピードより「品質重視」を伝え続けてきた。その結果、一度も不良品の流出は起きず、企業から新たな作業を受注することができた。

今年度に関しては、一般就労を希望する利用者は現れず当事業所でのサービス利用のみとなった。現段階では、利用者全員が就労継続支援 B 型での利用を希望しているため、個別支援計画書に沿って支援することはもちろんのこと、知識及び能力の向上のために必要な訓練を個人の特性に合わせて行っていかなければならない。